

# 平成 28 年度 名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校

## 学校関係者評価報告書

学校法人大橋学園 名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校 学校関係者評価委員会は、平成 29 年 1 月 12 日に「平成 27 年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

平成 29 年 1 月 12 日作成

学校法人 大橋学園

名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校

学校関係者評価委員会

### 1. 学校関係者評価委員（出席者）

1. 平澤 琢二（名古屋市中村区歯科医師会 会長）
2. 社本 太郎（株式会社モンシエル代表取締役社長）
3. 茶谷 敦孝（株式会社さんぼう 企画営業第 2 グループリーダー）
4. 松永 奈津希（歯科衛生学科 同窓会会長）
5. 野口 実咲（製菓製パン本科 同窓会会長）
6. 中尾 聡（名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校 学校長）
7. 岩田 壮介（名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校 事務長）
8. 杉本 佳史（名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校 副事務長）
9. 溝田 智也（名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校 主任）

#### ●オブザーバー（本校教職員）

加藤直美、中村高治、後藤一宏

以上 12 名

### 2. 平成 28 年度 自己評価（平成 27 年度の学校運営等についての評価）

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	評価：適切である。 課題：学校の理念、目標、目的に関する内容について、費やす時間が少ない。 理念・目標等は保護者に対しての周知が入学前、在学中ともに低いと思われる。 改善策：定期的な保護者向けの発信をこれまで以上に行う。
(2) 学校運営	評価：適切である。 課題：事業計画は策定されているが、実行に至らないことがある。 改善策：組織の機能を有効的、かつ体系的なものに編成する。

<p>(3) 教育活動</p>	<p>評価：適切である。  課題：学科カリキュラムの体系的編成の実態を把握しての評価までは至っていない  改善策：授業評価の実施、外部講師等の研修会の実施</p>
<p>(4) 学習成果</p>	<p>評価：適切である。  課題：業界の変化に対応していく教育内容の確立、多様化への対応。  退学面に関しては、退学希望者の中には本人の希望ではなく保護者や高校教員からの勧めにより入学したという話も多々ある。また、自己完結型の学生も増えているため、保護者方々も「本人の退学意思が固いのなら」と認める傾向も強くなり、防波堤としての役割が期待できなくなっている。そこに対してどう対応をしていくか。  改善策：退学率については2011年度から減少傾向にあったが、2015年度において上昇した。それに対しては保護者、高校教員への職業理解、適性の周知や新入生への早期のフォローを行い、退学率減少を図っていく。</p>
<p>(5) 学生支援</p>	<p>評価：適切である。  課題：学生相談、指導に対する経験による指導力の格差があるため、教員間での連携や指導も重要に。  改善策：教育相談、指導スキル等の研修への積極的参加を図る。</p>
<p>(6) 教育環境</p>	<p>評価：適切である。  課題：海外研修の是非について。学費捻出が困難な学生がいる現状で全員参加のスタンスは是か。  改善策：内部教員、学校、学園グループ全体によるスタンス決定。希望制も検討。</p>
<p>(7) 学生の受け入れ 募集</p>	<p>評価：適切である。  課題：本学の外部評価と競合他行の動向について  改善策：存在感の示し方、外部への発信を分かりやすくさらに強めていく</p>
<p>(8) 財務</p>	<p>評価：適切である。  課題：ユマニテク短大の設置による今後の変化  改善策：組織編成の合理化、強化を図る</p>
<p>(9) 法令等の遵守</p>	<p>評価：適切である。  課題：定着と充実 自己評価結果は公開しているものの、本校の教育に反映されているか。  改善策：大学設置法人としての枠組み（取り組み、緊張感等）を専修学校にも波及させていく。</p>
<p>(10) 社会貢献・ 地域貢献</p>	<p>評価：適切である。  課題：ボランティア活動の強化、支援制度が確立できていない。  改善策：貢献活動の積極的参加への指導、奨励、支援制度を作り、まずは地域貢献から取り組む</p>

### 3. 平成 28 年度 学校関係者評価 (平成 27 年度の自己評価についての評価)

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	適切である。
(4) 学習成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	適切である。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか」	適切である。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」	適切である。
(7) 学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」	適切である。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」	適切である。
(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」	適切である。

### 4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	大項目で「適切」といった場合においても、小項目でひとつでも不適切であった項目に対しては、今後、課題を解決しつつ改善に努めていただきたい。また、各業界のニーズに対しては、教育課程編成委員会、学校内の委員会等でしっかり議論をしていただき、教育に反映していただきたい。